



株主申合規則

第一章 創立位置及〇結社ノ手續

第一條 當社ハ若松商社ト名稱セ本店ヲ十四番地ニ支店
ヲ設百十八番地ニ設置ス

第二條 當商會ハ從來石炭商ノ慣行懸弊ヲ矯正セシ爲有
志協同一和レヲ起ス爲ノモノナレハ假リニ資金ヲ出レ
資質ノ利潤ヲ求ム者ニ非ス其業務ハ都下ニ弱スル荷
受向屋ノ業ニシテ專正實信義ヲ旨トシ他方ノ信託ヲ得テ
追年盛大ク期第一他ノ依頼ヲ受石炭掘石ヲ賣捌キ代金
ノ機換ヲナレ陸揚スル節之ヲ爲換金ヲ出スニ止リ傍支店
ヲ置キ輸入品ノ爲荷換及賣買ノ紹介ヲ業トシ時宜ニ因
リ商會ニ引受モコアルヘシト雖モ見込ヲ立求メテ賣買

ヲナスコトヲ專断トセス

第三條 當商會資本金ハ通貨七千五百圓株數ハ限百五拾
ヲ定製トス壹株通貨三拾圓壹人祇拾株以上所持スルヲ
許サス株券ハ一株毎ニ之ヲ附與ス

第四條 當商會營業年期ハ滿十ヶ年ト定期滿テ再ヒ繼續
スルハ株主ノ協議ニ任ヌ

第五條 營業年期中ハ如何ナル事故アルモ勝手ニ株金ヲ
引去ル事ヲ得ヌ

但商會ノ承諾ヲ得テ之ヲ讓賣渡スルコト得ルト雖此場
合ニ於テハ引受人ヨリハ必社則チ確守スルノ限ヲ取
ノ相當ノ手續ヲナスヘレ

第六條 當商會ハ荷受問屋ノ業ニシテ賣捌ノ手續料ヲ受納

フルモノナレハ損失ヲ生スルノ理由ナレト雖此萬一非
常ノ事故變災ニ遭遇シ損害ヲ蒙ル事アルモ其損害ハ株
金ニ止リ各自ノ資産ニ及サス

第七條 株主ハ本社一般ノ利害得失ヲ公議シ諸役員ヲ選
舉シ役員ノ給額等ヲ議定シ且何時タリモ商會ノ高帳簿
及現金ヲ検査スルノ權ヲ有ス

第八條 株主委員ハ毎月一度集會シ高帳簿及現金ノ検査
ヲナス者トス

第九條 金銀出納決算及利益金配賦ノ期ハ毎年一月七月
ノ兩次トス

第十條 利益金配賦ノ法ハ惣収入高ノ内ヨリ社費諸給料
及港備賞典備商會準備ヲ引去リ殘リ純益金ヲ總株數ニ

配賦ス

第十一條 當商會ノ役員タルモノハ總テ石炭賣買一己ノ業ヲ營ムヲ得サルモノトス

第十二條 社長以下諸役員規則外ノ取計ヲナレ或ハ怠惰失策ヨリ生レタル損害ハ其當人工賃却セシムルモノトス

第十三條

株券離形左ノ如レ

若松商會株券狀

國郡村

筑前

第

國

一
壹株

若松港若松商會

右明治十三年十一月十三日創設之若松商會之規則ヲ遵守シ商會株金ノ内通貨三拾圓ヲ如入シ同テ壹株ノ持主タルヲ相違ナキノ證據トシテ茲ニ商會ノ印章ヲ捺捺シ之ヲ附與ス
此券狀ヲ賣却譲與セルト欲セハ手數終テ該商會ニ持參スヘシ商會ニ於テハ檢査ヲ違テ裏面欄内ニ委員長長駐員自ツ記名關印セテ返戻スヘシ

明治 年 月 日

委員長
社長

第二章

第十三條

株券讓與及利益金受取ノ手續
株券ヲ賣却セントスル時ハ其事由ヲ添附シ一

株ニ付手数料金拾五錢ヲ添エ保証人ヲ立商會ニ出スヘ
レ商會ニ於テハ事實ヲ檢レ該券狀裏面ニ委員長社長記
名捺印シテ返却スルモノトス

第十四條 若シ券狀ヲ水火盜難等ニテ遺失スルハ速ニ
其事由ヲ詳記シ且發見ノ時早速當商會ニ出スヘキノ保
証人ヲ立手数料金拾五錢ヲ添エ商會ニ申立更ニ新株券
ヲ請求スヘレ商會ニ於テハ株券ノ餘白ニ書換ノ事由ヲ
朱記シテ附與スヘシ

第十五條 利益金配當ノ報知ヲ原ルルハ株券ヲ持參シテ
配賦ヲ受取ルヘシ

第三章 役員ノ定例

第十六條 役員ト稱スルモノハ社長委員支那人賣捌勘定

方ヲ總稱ス

第十七條 諸役員職掌ハ株主中互ノ投票ヲ以テ之ヲ撰定
ス尤被撰者タルモノハ左ノ株數ヲ所持スルモノニ限ル

社長

五十株以上

委員長

十株以上

支那人

十株以上

賣捌勘定方

五株以上

委員

三株以上

第十八條 社長ノ任期ハ滿三ヶ年其他諸役員ハ滿二ヶ年
ヲ一期トス最餘主ノ投票ニ依リ再任スルヲ得ヘシ

第四章 役員ノ制限及職務
第十九條 役員ノ制限及職務左ノ如シ



第一項 社長

一名

月給貳拾圓

社長ハ内外ノ商況社則ノ得失ヲ察シ諸役員(委員ヲ除ク)ヲ指揮シ其能否勸怠ヲ監督シ手代人ノ貳陟褒貶ヲ掌ル本社一切ノ事務ヲ統括シ一般ノ商路ヲ擴張スルノ責ニ任ス

第二項 支那人

兩名

月給拾八圓ツ、

支那人ハ社長ヲ助ケ其指揮ニ隨ヒ書翰ノ往復ヲ掌リ所有品物ヲ管掌シ商會ノ事務ヲ分ツ其一部ヲ負擔シ以下役員ヲ指揮シテ事務ヲ整理スルノ責ニ任ス

第三項 賣捌勘定方

八名

月給拾五圓ツ、

賣捌勘定方社長ノ協議ニ參與シ支那人ノ指揮ヲ受

第四項 手代

三名

月給拾圓ツ、

手代ハ社役員ノ命ヲ受石炭掘石ノ品位置數ヲ検査シ問屋ト立合差等價格ヲ定ムルノ責ニ任ス

第五項 委員長

壹名

月給壹圓

委員長ハ株主總代人トナリ平常社外ニ有テ本社ノ諸般ヲ監督シ或ハ社長ノ協議ニ參シ時トシテハ金銀出納ヲ検査スルノ責ニ任ス

第六項 委員

七名

委員ハ月給ナレ日當五拾錢ヲ給ス委員ハ毎月一度ツ、集會シ商會ノ諸勘定及現金ノ出納ヲ検査スルノ責ニ任ス



第七項 小使

三名

月給三圓五拾錢ノ、

小使ハ社用一切ノ雜事ニ使役ス

第五章 會議ノ手續

第二十條 毎年二月八月兩度ニ定式ノ集會ヲ開クヘシ其

他總株主五分ノ一以上ニ當ル株主ノ請求又ハ役員委員

ノ協議ニ依テハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ此場合ニ於

テハ期日及議事ノ大意ヲ記シ少クモ三日前社長ヨリ總

株主ニ報知スルモノトス

第廿一條 總株主五分ノ一以上ニ當ル株主ノ協議ニテ臨

時會ヲ開カント欲スルハ議事ノ大意ヲ社長ニ告ケ招

集ノ取扱ヲ請求スヘシ若シ社長ニ於テ十日以上其平

數ヲ怠ルハ委員長又ハ請求人自ラ招集スルコトヲ得ヘ

第廿二條

株主集會ノ議長ハ社長或ハ株主中ヨリ臨時之

ヲ撰任スヘシ

第廿三條

株主集會ニ當リ出席ノ總員其半ニ充タサルハ

ハ延會スヘシ

第廿四條

議事ノ可否ハ多數ニ因テ之ヲ定ム

但時宜ニ依テ懸議スルコトアルヘシ

第廿五條

集議ノ節ハ其要領ヲ議定録ニ記入シ他日ノ証

據ニ據ヘ置クヘシ

第廿六條

總テ集會及毎季勘定等ノ節村方委員二名立會

レ會議員タルモノトス

第廿七條

社長ノ請求ニ因リ諸役員ヲ招集シテ權限内ノ



事務ヲ議スルコフアルヘレ之ヲ号レテ事務會ト稱ス此場
合ニ於テハ社長必ス議長トナリ本會ト齊レテ決議ノ要
領ヲ登記レ後証ニ備置クヘレ

營業規則

第一條

一 毎日午前八時出頭午後五時退社トス

但事務繁忙ハ非此限

第二條

一 毎月一日 十一日 廿一日

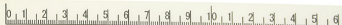
休業トス

第三條

一 毎月一日委員長委員商會役員及附屋中集會レテ商會ノ
得失ヲ論議レ且委員ハ商會ノ諸帳簿及現金ノ出納ヲ檢
査スルモノトス

第四條

一 毎月八日 十八日 廿八日 勘定日トス



第五條

一 石炭、燐石、買船入港ノ節ハ、問屋申出ケル承ケ品位量數ヲ順番帳ニ記シ、右順序ニヨツテ賣却取斗モノトス

第六條

一 積船ヲ不差向陸地ヨリ來石炭、燐石ヲ買入ンコトヲ請フモノハ、一口拾方斤ヲ限トシ、代金前取ノ上、順番帳ニ記入スルモノトス

第七條

一 石炭着港届出ノ順序ニヨツテ、臺帳ニ登録シ、順次賣却取斗モノトス

第八條

一 坑主送附炭ハ、豫テ定價ヲ立定價ヲキモノハ、其都度問屋

并荷主商會役員立會ノ上至當ノ代價ヲ定若受渡ノ際ニ至リ、積荷表裏ノ品格等有之節ハ、檢査ノ上相當ノ直下ケ取斗萬事不正ノ弊ナキ採精々注意スヘレ

第九條

一 石代金渡方ハ、現品受渡済ノ上ハ、問屋ヨリ仕切金拂出有無ニ不拘商會ヨリ、操替石代金渡方差支ナキ採取斗ヘレ

第十條

一 毎朝商會役員問屋中ト一同賣地ニ臨ミ、石炭品位量數檢査ノ上凡代價ノ見込ヲ立消帳ニ記載シ、歸社ノ上問屋并荷主立合ノ上代價ヲ定メ賣捌チナスモノトス
但量數不居合ノ節ハ、現量取斗モノトス

第十一條



一 不償受渡濟ノ上ハ間屋ノ受取証ヲ持出サセ之ヲ目的ト
シテ仕切帳編纂レ仕切金ヲ成立ルモノトス

但仕切金取立ハ即日限若拂方ヲ怠ルモノアルハ其
富人エハ後ト石炭賣却ヲサス定約ニ基キ處分スヘ
レ

第十二條

一 商會ノ事務賣捌出納ノ二課ニ分掌ス

第十三條

一 賣捌手数料左ノ通

塊炭

金三十錢

開石

同貳拾五錢

粉石

同貳拾五錢

右ハ壹万斤ノ額ナリ

石炭ハ貳百俵ヲ以粉炭壹万斤ニ當ル

第十四條

一時宜ニヨリ石炭陸揚スル節ハ荷主ノ望ニヨリ爲換金貸
渡スヘシ

但利子ハ一ヶ月限步定此外地料中師賃等ハ勿論荷
主ヨリ相辨ルモノトス

第十五條

一 營業資本トシテ金七千五百圓ヲ募集ス
但壹株金三十拾圓株數限百五拾ト定

明治十三年十一月

若松商會



